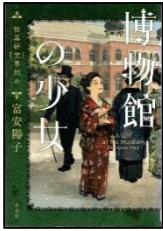
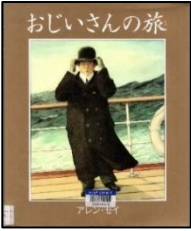
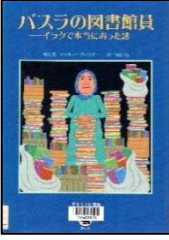


『ペンツベルクの夜』 キルステン・ボイエ//作 静山社（Y943 ペ） 第二次世界大戦末期のドイツにある小さな町ペンツベルクで実際に起きた事件をもとにしたお話。1945年4月27日の夜、ラジオから戦争が終わったと放送があった。それを信じたペンツベルクの人々は、町に以前のような平和を取り戻そうと次の日から行動を起こす。しかし、それが悲劇を生むことになる。はたして町に何が起こったのか？  	『ガールズ・ルール 愛され女子でいるには』 キャンディス・ブシュネル//ほか作 静山社（Y933 ガ） アメリカのハイスクールに通う17歳のマリンが憧れているのは文学鑑賞の授業を受け持つケベック先生だ。他の生徒からも人気の高い先生だが、マリンは他のみんなよりも気に入られていると思っている。そんなある日、先生のマンションに立ち寄った彼女に事件が起きる。それをきっかけに女子には守らないといけな い暗黙のルールが多いことに気づく。  	『真実の口』 いとう みく//著 講談社（YF イ） 中学3年だった律希^{りつき}、湊^{みなと}、未央^{みお}の3人はある冬の夜、迷子になった4歳の女の子を保護し、交番に届けた。このことで感謝状ももらった3人はこの行動が正しいことだと思っていた。しかし、高校生になった彼らはあのときの行動が本当に適切だったのだろうか と疑問を持つ。3人は真相を確かめるため迷子になっていた女の子を探し出そうとする。  	『6days 遭難者たち』 安田 夏菜//著 講談社（YF ヤ） 夏休みを利用して日帰り登山を決行した美玖^{みく}、亜里沙^{ありさ}、由真^{ゆま}の3人。登山経験のある（といっても高校で登山部に4ヵ月所属していただけだが）美玖が初心者ふたりに合わせて計画を立て、無理のない登山になるはずだった。しかし、当日3人は本来のルートを外れ、まさかの遭難をしてしまう。そこで壮絶な体験をした3人は極限の状況のなか何を思ったのか。  
『闇に願いを』 クリスティーナ・スーントーンヴァット//著 静山社（Y933 ヤ） 自由を夢見るポンという少年が主人公のファンタジー。刑務所で生まれたポンは、法律により13歳までそこから出ること はできない。刑務所から出て自由になることを夢見ていた彼は9歳のころ脱獄に成功する。しかし、そこから脱獄犯として逃亡生活が始まっ てしまう。はたしてポンが刑務所から出て見た外の世界に自由はあったのか？  	『学校に行かない僕の学校』 尾崎 英子//作 ポプラ社（YF オ） あることをきっかけに不登校になり、引きこもりにもなった薫^{かおる}。この状況を変えようと中学2年の夏から自然が豊かな場所にある全寮制のフリースクールへ通うことを決める。実は薫には誰にも言うことができない秘密があり、それが彼自身を苦しめていた。しかしフリースクールで同じ年の銀河^{ぎんが}やイズミをはじめいろいろな人との交流を通し、薫の気持ちに変化が生まれる。  	『アリゲーターガーは、月を見る』 山本 悦子//著 理論社（YF ヤ） 母親が新興宗教にはまった航^{わたる}、弟の死に責任を感じる朔哉^{さくや}、祖母を亡くし身寄りがいなくなった葉月^{はづき}の3人は、夜な夜な名古屋城のお堀に集まっていた。お堀には1匹のアリゲーターガーがおり、3人は孤独なアリゲーターガーに自分を重ね、語りかけることで、気持ちを落ち着かせようとしていた。しかし、あるときアリゲーターガーを捕獲するという噂を聞いた3人はある行動を起こす。 	『海のなかの観覧車』 菅野 雪虫//著 講談社（YF ス） 中学3年生の透馬^{とうま}には、なぜか5歳の誕生日の記憶がない。そんな彼の15歳の誕生日に「誕生日おめでとう。あれから10年たったね。」などと書かれた手紙と黒い砂の入ったビニール袋が届く。この手紙を調べるうちに5歳の誕生日に遊園地に行っていた記憶がよみがえる。透馬はこの日何があったのか調べるうちにある真実にたどり着く。  

『博物館の少女 怪異研究事始め』 富安 陽子//著 偕成社（YF ト） 両親を亡くし、頼る家族のいなくなったイカルは、大阪から遠い親戚のいる東京へやって来た。道具屋を営んでいた父の影響で目利きの才能を持っていたイカルは、それを見込まれ上野の博物館で働くことになる。古蔵で行われている怪異研究の手伝いをする ことになり、ある不思議な箱の謎に迫っていく。明治時代の博物館を舞台にした物語。 	『画の悲み』 国木田 独歩//著 miya//画 文研出版（YF ク） 岡本は画を描くことが好きで、得意でもあったが、クラスメイトの志村^{しむら}にはかなわないでいた。志村のことをライバル視していた岡本だが、一緒に写生をしたことをきっかけに仲良くなる。やがて、故郷を出た岡村が数年後に志村を訪ねてみると、驚きの結末が待っていた。 	『おじいさんの旅』 アレン・セイ//文・絵 ほるぷ出版（E セ/オ） あるおじいさんの半生を孫の視点で描いた絵本。若いころ、世界をみたいとアメリカへ渡ったおじいさん。しかし、日本への思いも忘れられず…。 	『待ってろ!甲子園』 せいちょう 青鳥特別支援学校ベースボール部の挑戦 日比野 恭三//著 ポプラ社（Y783 マ） おもに知的障がいのある子たちが学ぶ青鳥特別支援学校では、ベースボール部に所属する生徒たちが日々練習を重ね、甲子園を目指している。そんな生徒たちの姿を追ったノンフィクション。 
--	---	---	---

『ボクは日本一かっこいいトイレ清掃員』 大井 朋幸//著 岩波書店（Y518 ボ） 著者は、東京の奥多摩というところでトイレ清掃員をしている。日本一かっこいいトイレ清掃員として、便器を手で磨くなどし、みんなが気持ちよく使えるトイレを目指している。しかし、この仕事を任せられた当初は、恥ずかしさで仕事内容を秘密にしていた。そんな著者はどのようにして日本一かっこいいトイレ清掃員になったのか？ 	『これから大人になるアナタに伝えたい10のこと』 サヘル・ローズ//著 童心社（Y779 コ） 女優やタレントとして活躍している著者は、イランで生まれました。当時、イランはイラクと戦争中で、この戦争で著者は家族を失ってしまいます。やがて養母と日本にやってくるのですが、二人での生活はとても大変なものでした。そんな著者の経験を踏まえて書かれた読者へのメッセージがつまった本です。 	『バスラの図書館員 イラクで本当にあった話』 ジャネット・ウィンター//絵と文 晶文社（E ウ/バ） 2003年、戦火がイラクの都市バスラへ達しようとしていたとき、図書館の本を必死に守った図書館員がいました。本はどのようにして守られたのでしょうか。実際の出来事をもとにした絵本。 	『放課後によむ詩集』 小池 昌代//編 理論社（Y908 ホ） 31編の詩が入ったアンソロジー。それぞれの詩に編者のコメントも載っており、詩を理解するためのヒントにもなります。 
--	--	---	--

紹介文についている QR コードを読み込むと、へきなん電子図書館にあるその本のページにアクセスできます。

へきなん電子図書館

スマホやタブレットがあればいつでもどこでも本が読めます！



★だれが使えるの？

→図書館の利用者カードを持っていて、碧南市に住んでいる、または碧南市内の学校に通っていたり、働いている人です。

★どうやったら使えるの？

→碧南市民図書館 HP から「へきなん電子図書館」にアクセスして、ログインすると使えます。ログインにはパスワードがいりますので、利用者カードを作るときに申請してください。また、メールアドレスも必要なので、自分で登録することも忘れずにお願いします。（パスワードの登録は利用者カードを作った後でもできます。わからないことがあったら図書館のスタッフに声をかけてください。）

利用者カードやパスワードの登録には、本人確認ができるマイナンバーカードや学生証(住所が書いてあるもの)が必要です。

また、利用者カードを失くしてしまったときは、再発行ができますが、そのときに100円かかります。再発行の手続きにも本人確認が必要なので、マイナンバーカードなどを忘れずに図書館に持ってきてください。